

栃木県さくら市早乙女

株式会社セブンハンドレッドファーム ~地域の経済再生に貢献したい~

● 参入のきっかけ・目的

- ・ コロナ禍でゴルフ客が激減し、社長は、誘客事業の難しさを痛感しました。「売り物があるビジネスが必要」として、農業参入を決意しました。
- ・ 当地にある閉館したホテルの再建とともに、農業参入により地域の経済再生に貢献したいという思いがありファームを設立しました。

● 参入地域（土地）を選んだ理由

- ・ 親会社の所在地は、地域経済の衰退とともに、近年賑わいを失っていると社長が実感。「地域活性化のためには農業が欠かせない」、「地域資源を活かした街づくりで市や近隣地域をもっと元気にしてい」という思いから、この地での農業参入を決意しました。

● 主な販路

- ・ いちごは、JA、東京大田市場への販売や、直売所（系列会社が市から経営受託）、観光農園で販売しています。
- ・ 主食用米は、系列ホテルや系列ゴルフ場で販売しています。

● 本業との相乗効果

- ・ 農業に力を入れることでグループ全体とお客様がもっと幸せになれる確信しており、新規事業として農業に取り組むことで、地域の環境や食を守る新たなビジネスモデルを示していくたいと考えています。
- ・ この取組は、社会貢献活動というわけではなく、グループの事業を発展させていくためにも非常に重要な活動と思います。

【いちごの収穫（60a、ハウス25棟）】



【田植えの様子（1.5ha）】



● 自治体等からの支援

- ・ さくら市をはじめ、農業振興事務所等の関係機関と連携し、ふるさと納税事業への参画や「いちご王国マルシェ」への出店など、栃木県内の取組を通じて、販路拡大に努めています。
- ・ 栃木県観光交流課が実施するインバウンド誘客に向けた海外プロモーション事業において、いちご狩りを観光コンテンツとして紹介いただくなど、農業と観光を連携させた取組をすすめています。

● 参入して苦労したこと

- ・ 自己資金で農業設備に投資しました。
- ・ 農地を探すことに苦労しましたが、ゴルフ場やホテルを経営していることから、近隣の農家から企業として信頼を得ていたため、どうにか農地を借りることができました。

● 参入した成果

- ・ ゴルフ場やホテル経営で培ってきた自社のリソースを最大限に活かし、農業と融合させることで、今までになかった地域の魅力の創造ができると考えており、様々な事業を通じ、「地域の農業を将来に向けて持続可能なものにする」といった思いを込めて、地域の生産者と連携して地域の活性化に寄与しています。

● 今後の展望

- ・ 農作物の生産だけでなく、製造・加工から販売・流通も手掛ける「6次産業化」に取り組むことを目指し、地域資源の付加価値を高め、魅力的なブランドを作っていくみたいです。
- ・ 魅力的な栃木の観光資源や農産物をアピールしながら、自治体や地域の商工会議所と連携した取り組みを展開し、農業と観光をかけ合わせたアグリツーリズムを進めていく考えです。

● 詳しい情報はこちら（会社HP）

やさしい農業は、つながりから生まれる。地域と手を取り合って挑む米づくり | わたしたちのnote

★ 概要 ★

法人設立：2024年（農業開始は2023年）
栽培作物：水稻、いちご

経営面積：約2.1ha
従業員：6名（うちパート2名）

【いちご狩り体験の様子】



【農産物直売所の様子】

